

竹原市こども計画（案）のパブリックコメント実施結果について

1 パブリックコメントの概要

募集期間	令和7年2月4日（火）から3月5日（水）まで
閲覧場所	健康こども未来課、忠海支所、竹原中央児童館、竹原市ホームページ
意見提出方法	ホームページの入力フォーム、電子メール、郵送、持参
意見提出先	竹原市健康こども未来課

2 意見募集の結果

意見提出者数 8人
意見数 36件

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
1	不登校児童生徒数について	不登校児童生徒数は急増しているが、子どもの人数は年々減っているなので、割合も知りたいです。	現在、広島県教育委員会では、不登校の状況として、児童生徒数で示しているため、これに準じて本市におきましても割合ではなく児童生徒数で示しています。
2	一時保育の利用料について	たんぽぽ時間外 30分 300円 →400円です	ご意見の通り、計画を修正しました。
3	休日保育について	休日保育の定義は何ですか？ ふれあい館のたんぽぽ、赤とんぼは、日祝も利用があります。	地域こども・子育て支援事業の休日保育とは、保育を必要とする2号または3号の支給認定を受けており、かつ、市内の認定こども園に入園している児童を対象に行う保育の給付です。ふれあい館で実施中の事業とは、異なります。
4	基本理念について	こどもまんなかのまちづくりを基本理念とする事に賛同します。「こどもの夢を叶える」という表現は大人が主体なので「こどもが夢を叶えるまち」としてはどうでしょうか。	「こどもの夢を叶える」という表現には、大人が支援するだけでなく、こども自身が自分の夢を叶えることも含んでおります。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
5	親になる準備に必要な情報提供や啓発について	出産後のケアの教育に関して、父親への教育をフランス並みにしないと意識も母親メインの現状も変わらないと思います。	父親の育児を促進するため、父子健康手帳の交付やあかちゃん講座で沐浴実習に取り組んでおります。今後も、家族が協力しながら子育てをする必要性について啓発してまいります。
6	親になる準備に必要な情報提供や啓発について	主に第一子出産に向けた支援メニューが書かれていますが、竹原には産院がないので、第二子以降出産時への支援メニューも計画に記されるのではないかと思います。	本市では、第2子以降も第1子と同様に、妊産婦と子育て家庭にも寄り添い、個々の家庭に応じたきめ細かな支援をしております。
7	親になる準備に必要な情報提供や啓発について	LINE等を使って、子育て情報を保護者へ効果的に届けてはどうか。 母子手帳アプリを父親へも普及させてはどうか。 「母子保健」だけでなく「父子保健」「家族保健」を意識した取組を希望する。	母子手帳アプリは、ご家族で子どもの成長を見守ることが出来るように、記録を共有する機能を有しております。母親とこどもに限らず、父親を含めたこどもを育てる家庭の支援が重要と考えていますので、引き続きご家族で共有することをお勧めして参ります。 LINE等を活用した情報提供につきましては、今後の業務の参考とさせていただきます。
8	この地域で子育てしたいと思う親の割合	このアンケートは竹原に住みたい人が回答していると思います。家を建てるタイミングで竹原を離れる子育て家庭は多く、そのような家庭の意見が反映されるような声の拾い方をする必要があると思います。	こちらの数値は、本市で実施しております4～5か月児健康診査の受診者の回答です。ご意見は、今後、様々なご家庭の意見を伺う際の参考とさせていただきます。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
9	こども・若者の心身の健康づくりについて	感染症対策を追加してください。 コロナを筆頭に、感染症が増えています。 このままでは、こども園や学校に安心して通わせることができません。 換気の徹底や適宜マスク着用、前向き席での給食、空気清浄機の設置などの対策をお願いします。	認定こども園においては、手洗いの励行や咳エチケットの徹底、空気清浄機の設置など「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づいて感染症対策に努めています。
10	多様な遊びや体験活動ができる機会づくりについて	スポーツだけでなく、音楽・美術・書道など芸術分野も取り入れると、子ども達にとっては情操教育につながると思います。	ご意見のとおり、芸術分野の記載がありませんでしたので、計画を修正しました。
11	多様な遊びや体験活動ができる機会づくりについて	「こどもが自由に遊ぶこと」の大切さをもっと周知・啓発することや、遊ぶ場所の整備、こどもの遊びに携わる大人のスキルアップなどを計画に盛り込んでほしいです。また、遊ぶ場所として、公園の整備だけではなく、「冒険遊び場」の常設も検討してほしいです。	保育士等の研修を通じて、「こどもが自由に遊ぶこと」の大切さの啓発を図ってまいります。遊ぶ場所については、旧市役所跡地に整備予定の複合施設において、検討を進めてまいります。
12	多様な遊びや体験活動ができる機会づくりについて	竹原の自然豊かな環境を生かした保育をして欲しい。	これまでも季節や自然を感じることもできる園外活動などをしております。引き続き竹原の自然豊かな環境を生かした保育をしてまいります。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
13	多様な遊びや体験活動ができる機会づくりについて	子どもは乗り物が大好きなので、子どもの描いた絵やデコレーションなどをバスや鉄道、駅に掲示するなど、みんなで乗りたくなる機会を作ったり、積極的に公共交通機関を利用する体験活動を取り入れたり、小さなときから公共交通機関に親しむ体験をお願いしたいです。	こども園や学校等の協力による待合環境の装飾や、バスの乗り方教室の開催などについて、検討を進めてまいります。
14	幼児教育アドバイザー派遣事業について	県の幼児教育アドバイザー派遣事業のほかに、市独自の取組はあるのか。	幼児教育アドバイザー派遣事業については、広島県教育委員会の乳幼児教育支援センターが実施する事業となっております。市独自でアドバイザーを派遣する取組はありません。
15	認定こども園のICT化について	認定こども園の財政環境によって導入できる出来ないの差が生じると考えられるため、市の公式LINEに機能を搭載して共同した方が効果的ではないのでしょうか。他の市の公式LINEも登録していますが、非常に便利であると実感しております。	公立こども園においては、令和7年度にICT化として保育支援システムの導入を計画しております。私立では、すでに導入済みの園もありますし、未導入の園については、必要に応じて導入を支援してまいります。園児台帳との連携などLINEではできない機能もありますので、保育支援システムを導入いたします。
16	放課後児童クラブの定員について	令和8年度から、大乘小学校が竹原小学校へ統合されるため、竹原放課後児童クラブの児童数の増が見込まれます。	ご意見の通り、学校の統合により、一時的に竹原放課後児童クラブの児童数の増を見込んでおりますが、児童数全体は減少傾向となっております。仮に、ニーズが定員を超えた場合には優先順位に基づき利用調整をいたします。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
17	多様な遊びや体験活動ができる機会づくりについて	基本目標と数値目標の相関性が分かりません。	基本施策5 多様な遊びや体験活動ができる機会づくりでは、主に、認定こども園や放課後児童クラブなど幼児期から学童期にかけての取り組みを掲げております。このため、これに関連する評価指標を設定いたしました。
18	子育てのネットワークづくりについて	母親や父親がオンラインで交流できたり、チャットで相談できたりすると良い。 子育てサークルの周知や参加へつなげることが必要である。	乳幼児健診など様々な機会を通じて、子育てサークルの周知や参加へつなげる取組を進めてまいります。オンラインでの交流や、チャットでの相談については、今後の施策の参考にさせていただきます。
19	こどもが安心して過ごせる居場所づくりについて	園児たちが、本川公園の芝生で昼の弁当を食べておりました こんな子供たちの声に励まされ地域の皆さんと公園の世話を続けてますが 市の子ども計画でもっと子供が楽しく集える公園を専門家と地域で作って行きたい	公園の芝生化は、公園里親制度の一環として取り組んでおり、市民のボランティアの方のご協力により管理され、利用者の方にも好評をいただいております。 また、公園施設整備については、既存施設の老朽化対策と併せて、今後子ども達が安全に遊べる空間を確保し、子育てしやすい環境の整備に向けて進めて参りたいと考えております。
20	こどもが安心して過ごせる居場所づくりについて	町中の空き地を利用して 子供や住民の交流の場を作れたら楽しいと思います。 私自身孫達に畑作業の楽しさを教える為に家庭菜園をします。 同時に 野菜の成長を子供に見せたり収穫の喜びを味あわせたい。	空き地の増加については、周辺環境を悪化させる恐れがあり全国的な問題となっております。ご意見を参考にさせていただきます。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
21	ファミリーサポートセンターについて	協力会員に関して、子どもいない人達にも周知すれば、会員がもっと増えて、協力内容の幅も広がると思います。	竹原市社会福祉協議会の活動を通じて、協力会員の募集をしております。今後も会員の拡大に向けて、竹原市社会福祉協議会と連携して、周知を図ります。
22	学校をはじめとする教育環境の充実について	こどもの権利に関する意識啓発（大人にも子どもにも啓発する）や、こどもアドボカシーの知識の周知などは必須ではないでしょうか。	様々な機会を通じて、こどもの権利に関する意識啓発、こどもの意見表明を支援する活動を進めてまいります。
23	学校をはじめとする教育環境の充実について	大乘地区から竹原小学校へのスクールバスについて再検討をお願いします。経済的理由があるのは理解しておりますが、将来を見通した準備をお願いします。子供たちに何かあってからでは遅いです。	通学支援については、大乘小学校統合準備委員会で協議を行っているところです。
24	こどもがしっかり学ぶについて	吉名には YOSHINA 未来学という特色ある教育に力を入れておられ地元が盛り上がっている。ここでしか受けられない教育を受けられる。こういうことをもっともっと外部発信できないものだろうか。	各学校においては、児童生徒の実態等に応じて育成したい資質・能力を明確にし、様々な学習場面を設定することで、教育活動の充実を図っているところです。 今後も、YOSHINA 未来学のような特色ある学習の成果を市民の皆様を知っていただけるよう、プレスリリースしたり、市内の学校に共有したりする等、積極的に発信してまいります。
25	図書館の運営について	親子で参加できる絵本の会を開催して欲しい。	市立竹原書院図書館では、月に1回図書館児童コーナーで「えほんの会」を開催しております。 詳しくは、広報たけはらと共に回覧しております、「としょかんだより」を御覧ください。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
26	地域や社会を良くするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合に関して	幼少期から地域の方々と活動をすることで、地元への愛着が湧くと感じます。他市と比較して、竹原市では小中学生だけでなく、高校生、県内の大学生と共同するプロジェクトが少ないように感じます。	いただいた意見を参考にさせていただき、本市をフィールドとして、高校生、大学生が、地域の課題解決や地域の活性化に取り組むことができる環境づくりを進めてまいります。
27	こども若者の意見表明の機会の確保について	意見表明の機会の確保は、全てのこどもにその機会が確保される必要があります。日常の中で、とりとめのないこどもの、声ともならない声に耳を傾けて、真剣に向き合う大人を養成することが必要だと思います。こどもアドボカシーについて学べる機会の確保を計画に盛り込んでほしいです。	現在開催しております中学生話し方大会においては、発表をとおして大人も中学生が思っていること、考えていることを知り、理解を深める機会になっています。日常のこどもとの関わりの中で、周りの大人が発言に耳を傾け、ニーズや考えを受け止め支援することで、こどもが主体的に発言、行動できるように見守って参ります。こどもアドボカシーを学ぶ機会については、今後、事業を検討する際の参考にさせていただきます。
28	若者の出会いや結婚への支援について	スポーツだけでなく、音楽・美術・書道など芸術分野も取り入れると、婚活に関しては今まで参加しにくかった人の参加につながると思います。	様々な分野や場面において、若者の出会いのきっかけづくりを支援できるよう取組を進めてまいります。
29	若者の出会いや結婚への支援について	若者の出会いや結婚への支援があまりうまく機能していないと思います。新しい取り組みが必要だと感じます。	若者の出会いや結婚への支援について、ご意見を参考にしながら、広域で連携した取組などについて検討を進めてまいります。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
30	こども誰でも通園制度について	来園の頻度が低い児童は、親子分離で泣いたり、園生活に慣れるのに時間がかかったりして、在園児が落ち着かないことがあると聞いた。導入に当たっては、在園児の生活を考慮して欲しい。	こども誰でも通園制度については、全国的に令和８年度からの本格実施が予定されており、現在モデル事業が実施されています。ご意見は、今後の事業の参考にさせていただきます。
31	子育て支援に関するアンケート調査結果について	「放課後児童クラブは土曜・休日は９割弱が利用する必要はない」とのことですが、本当に困っているのはその残りの１割強の人たちです。そこをカバーできる施策の積み重ねが「だれもとりのこさない社会」をつくっていると思っています。	アンケート結果を踏まえ、休日のこどもの居場所については、放課後児童クラブ以外の事業の充実を図るよう検討します。
32	こども・若者アンケートについて	特別な配慮が必要な家庭は、全体の割合で言えば少数のため、全ての子ども向けにとったアンケートの中では、誤差の範囲に含まれてしまうかもしれません。 こどもたちは「声にならない声や思い」をたくさん持っています。そこに寄り添い、思いを言語化する力のある大人が必要です。制度として確立してほしいです。	これまでも、様々な機関や組織が連携して、特別な配慮が必要な家庭の把握に努めております。アンケートでは把握できない子どもの声についても、こどもに寄り添った対応ができるよう引き続き努めてまいります。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
33	こども・若者へのアンケート調査の項目について	基本理念に沿って、夢や目標を持つためには、日常生活が安心な基盤になる必要があります。まずそこが整っているかの調査が必要だと思います。例えば、遊ぶ時間が確保されているかどうか、子どもの身体的、精神的な健康状態はどうか、自分のことを好きだと感じるか、こどもの権利が守られていると感じるかどうか、家族との関係は良いと感じるか、放課後の居場所（現状と希望）、子どもに関する施策に意見を出し社会に参画したいと思っているかどうか、などを調査すると実態がもう少し見えてくるのではないのでしょうか。	こども・若者へのアンケート調査の項目については、今後の実態把握等の調査の際に参考にさせていただきます。
34	子ども子育て会議委員の構成について	民間の教育産業やスポーツ、芸術分野、食のプロの人がいない状態であれば、改善されるべきだと思います。	ご意見は、今後の子ども・子育て会議委員の委嘱にあたって、参考にさせていただきます。
35	子ども子育て会議の議事録について	「竹原市子ども子育て会議」において、計画の内容に対する検討、議論し、認識の共有を図ったとありますが、公開されている子ども子育て会議の資料や議事録は令和2年度までのものでした。本計画においてどのような議論がなされたのか気になります。	会議の資料や会議録の公開が遅れており、誠に申し訳ありません。準備ができ次第、できるだけ速やかにホームページで公開をしてまいります。

No.	該当箇所	意見の概要	意見に対する市の考え
36	子ども子育てについて話せる場づくりについて	この計画について、もっと市民が興味を持ち、当事者が意見を出し、私たちには見えていない困っている人にも届くような使いやすい制度ができたらいいなと思います。 そのためには、もっと子ども子育てについてざっくばらんに話せる場が必要ではないかと思います。	様々な機会を通じて、この計画について、市民の皆様に周知を図ってまいります。ご意見は、今後の施策の参考にさせていただきます。